

地区目標

ロータリーにもっと誇りを
そして学び DEIの心を持って行動実践しよう

クラブテーマ

ロータリーを楽しみ、仲間と絆を！

◆点鐘：遠藤 靖彦 会長

◆ロータリーソング：国歌・蔵王を仰ぐ

◆司会：近藤 和幸 S.A.A.

◆会場：パレスグランデール



第3025回例会

令和6年9月2日(月)

会長あいさつ

遠藤 靖彦 会長



さて、今日は高坂知甫さんの話をさせていただければなと思っておりました。西ロータリークラブのチャーターメンバーの1人です。1957年、昭和32年の11月頃に山形ロータリークラブから新しいロータリーを作りたいということの話があり、最初のキーマンとなったのが阿部一郎さん、湖豹治郎さん、大沼八右衛門さん、そしてこの高坂知甫さんの4名の方であります。この4名の方がキーマンとなり、おの会の会員を集めて、そして1957年の12月5日に26名で西ロータリークラブは創立となりました。翌年の2月27日に国際ロータリーからの承認をいただき、6月に加盟承認の伝達式をおこなったという流れになっているようであります。

当時、西ロータリーの地域というものが決まっております。産業通りから県庁に突き当たりといえますから、この前の通りから県庁に突き当たり、旅籠町から円応寺を通り、千歳橋を結ぶ線より西側。ちょっとここを斜めに行きますけれども、その通りから西側の会員を集めて西ロータリーとしては活動しなさいという流れだったようであります。今は山形市全域というふうになっておりますが、最初の頃はそういうことでの地域割りがあったとおこなわれたと。それで、山形ロータリークラブの方から指導を受けながら西ロータリーの設立に動いたというようなことです。

この高坂知甫さんという方なのですが、鶴岡に生まれて満州の医科大学を卒業、そして在学中にロシア人音楽家のスタウロフスキーにチェロと指揮法を師事して、同大学の交響楽団の基礎を作りました。室内楽にも興味を持ち、モスクワでピアニストとして有名であったスタウロフスキー夫人を迎え、友人の医学生バイオリニストとメンデルスゾーンのパイオトリオ等に挑戦した。作曲にも意欲的に取り組み、『みぞれ』、そして『アイスホッケーのうた』などの作曲もされたようであります。そしてソ連抑留が解かれて帰国して、山形市の赤十字社の診療所に勤務されましたが、昭和24年に耳鼻咽喉科として開設されたということでも履歴が載っております。

先ほど話しましたように、西ロータリークラブの創立に関わりまして、その後、昭和50年にガバナーをされたようであります。そしてまた、高坂さんは山形フィルハーモニー交響楽団を創設された方という記録が残っております。

す。私費を投じて練習場を建てたりしてオーケストラの練習、団長を務める傍ら、楽団のレベルのさらなる向上を目指すため、プロの指揮者の指導を受ける必要性を感じ、日本フィル指揮者を迎えて山フィルの急成長期を作られたということでもあります。

今現在は山形フィルハーモニーにつきましては、山形ロータリークラブにいます金山知裕さんは同業者ですけれども、その頭になっていろいろな活動をされております。実はその高坂知甫さんのメモリアルコンサートとして、これは次男の方が企画をされて準備をしているようですが、9月28日14時開演で、場所は文翔館の議場ホール、そちらでメモリアルコンサートというものを開催するという案内が来ましたので、高坂知甫さんについて確認といういろいろな時代の背景について調べさせていただいて、皆さまにご披露させていただきました。このようなことで西ロータリーが始まったんだなということをご理解いただければありがたいですし、もし興味がありましたらこちらのメモリアルコンサートにも行っていただければありがたいなと思っております。ちなみに、10枚ほどチケットを預かっておりますので、もしも今日、行きたいという方がいればお譲りさせていただきたいと思っております。よろしくお願いを申し上げます。

幹事報告

武田 良和 幹事

- 事業計画及び報告書は配布になっておりません。来週の例会で配布予定といたします。
- 10月のスケジュールですけれども、10月27日に変更例会ということで「最上川物語パート2」の例会を予定してございましたが、先ほどの理事会で検討したところ、10月21日早朝、これを最上川原とか馬見ヶ崎川原で清掃活動を行うというようなことで予定してございます。内容についてはこれからまた詰める部分もありますけれども、10月21日月曜日、朝6時半集合を予定しておりますので、皆さま手帳にご記入いただきたいと思っております。
- 例会の際、あるいはさまざまな事業の際に、ロータリーバッジをぜひ着けていただきたいということで、ガバナーが強く訴えかけていらっしゃると思います。忘れた方は500円で貸し出しもいたしますので、ぜひ意識を高めてご参会いただきたいと思っております。
- 今月のロータリーレートは145円です。

委員会報告



友好クラブ委員会

菅原 茂秋 さん

9月27日に友好クラブ委員会として、金沢西ロータリークラブの60周年記念に参加をさせていただきます。早めではありますけれどもご案内をさせていただきたいと思っております。

ご参加の皆さまには、当日のチケットの配布を事前におこないます。特段集合の時間は設けませんので、各自遅れないように金沢までおいでいただきまして、そちらのホテルの会場で集合時間を設けてご案内をさせていただきたいと思っております。式典と懇親会のほうでご参加の皆さま、何卒よろしくお願いしたいと思います。

翌日のバス観光の時間は、前日にお知らせをさせていただきたいと思っております。23名のメンバーで金沢へ行ってまいりますので、何卒盛り上げていきたいと思っておりますので、何卒協力のご協力のほどお願いを申し上げます。



親睦・家族委員会

佐竹 耀光 さん

会員8名、奥様が12名、9月に誕生日を迎えられます。おめでとうございます。

ニコニコ BOX

〈9月2日〉

遠藤靖彦会長／市民ゴルフ

8月25日の市民ゴルフで、始球式を務めさせていただきました。その後のスタートコースで3連続チョロでしたが、44、38で回ることができました。この調子で7ロータリーゴルフまで持ちますように。

武田良和さん／夜例会および懇親会

これまでにない取り組みに、ご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。特に懇親会は盛り上がりしております。今夜もイケイケです。引き続きよろしくお願い致します。

斎藤豪さん／多くの皆さまからのご支援金、ありがとうございました

8月6日から9日にかけて、小学生バレーボールの全国大会が行われました。私の息子が所属する千歳小学校バレーボール部男子が出場し、初出場にもかかわらずベスト16の快挙を成し遂げることができました。山形県勢では44回中4度目とのことで、大阪、神奈川のチームを破ったの価値あるベスト16でした。これもひとえにご支援金をいただいた方々のおかげです。本当にありがとうございました。

遠藤正明さんおよび奉仕プロジェクト一同／シクシク

前回26日の夜の例会ですが、ニコニコが1件もないということでご報告させていただきまして、シクシクさせていただきます。

ゲスト卓話



山の楽しみ方と 自然環境について

菅 文広 さん

《蔵王山岳インストラクター協会》

本日はお招きいただきまして大変ありがとうございます。蔵王山岳インストラクター協会から参りました、菅文広といいます。どうぞよろしくお願いたします。

今日は「山の楽しみ方と自然環境について」ということでお話をいただきましたので、前半は登山ガイドから見た山形の山の魅力、後半は皆さんも心配なさっている蔵王のアオモリトドマツの関係についてもお話していこうと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

まず、山形の山についてですが、何といっても日本百名山が6つあることが自慢です。これは東北1位です。山形にある日本百名山は、標高が2,000メートル程度と低いのですが、それぞれが特徴的で、雄大で秀麗な山容を持っていて、中腹にはブナの林が広がってたりしまして、とても美しい山が多いです。また、高山植物が多いというのも山形の山の特徴であります。以前、山形に初めて来たという登山客の人からお話を聞くことができました。山形の山は、東北の山に共通することなのですが、なだらかな山が多くて、山全体が緑に囲まれている、高山植物も多くて、すごく感動したということをおっしゃっていました。「絶対また来ます」ということをおっしゃっていました。それくらい東北の山は魅力のある山がたくさんあります。

このピンクでかわいい花ですが、こちらは高山植物の女王と呼ばれていますコマクサです。山が好きな人には、高山植物を目当てに登山している方も多くいらっしゃいます。コマクサは、日本アルプスなどの高山、標高3,000メートルくらいのところに咲くのですが、蔵王もコマクサで有名ですが、蔵王は標高1,800メートルくらいのところに咲いています。これはなぜかということと解説しますと、東北の山は、日本アルプスに比べて緯度が高いんですね。緯度が高くて冬は非常に低温な環境になります。季節風も強く、大変厳しい環境になります。雪も多く降ります。ということで、だんだん森林限界も下がっていきまして、そこに咲いているということで、高山と似た環境になっているのが蔵王の山頂の様子であります。関東方面の山に行くと、2,000メートルの山でも稜線まで樹林帯で囲まれていることがほとんどです。ですので、蔵王のコマクサは非常に貴重です。あと見やすいというのも特徴であります。

このような環境の中で、残雪が消えたあとに次々と咲き誇る高山植物は一見の価値があります。登山をしてとても心が癒されます。花の時期はそれぞれで、咲いている時期にぴったり合わせて行くというのはすごく難しいことなのですが、タイミングよく登山の時期と花の時期が合えば、とてもいいお花畑を見ることが出来ます。また、山形の山にはイデリンドウ、チョウカイフスマ、ザオウアザミなど、山の名前が付いた固有種が多いというのも特徴です。

次に、山形の山の中腹を彩るブナについてお話をしたいと思います。山形の山に登っていると、ブナ林が非常に多いなと感じます。しかもこのようにとても美しいの

です。ブナの森といえば白神山地がとて有名ですが、山形県は天然ブナの県土に占める面積が24%もあって、その面積は日本一だそうです。でも、そのことを知っている人はほとんどいません。ちょっともったいない気がします。ブナの森は日々変化して美しい姿を見せてくれます。小国町や月山の遊歩道が整備されているところでは、体力に自信のない方も気軽にみるることができますので、ぜひブナの美しさも感じていただきたいと思います。

また、ブナは美しいだけでなく、水源の保全や、そこに暮らすクマなど野生動物の食料にもなりますので、山にとってとても大切な木です。

これは今年撮影したブナの枝ですが、実がたくさん付いているのがわかります。昨年、一昨年とブナは凶作でした。今年はこのブナの実を見て、豊作になるといいなと思っているのですが、ブナの実がなくても、中に入っている種なのですけれども、こちらがしっかり熟すかはその時々気候によって違いますので、何とも言えません。でも、ブナの実はクマも大好きな実となります。また、クマが大好きなだけあって、人が食べてもおいしいです。お酒好きの人はぜひ1回食べてみていただきたいなと思います。

クマの話が出たので、ツキノワグマの話も少ししたいと思います。今回は山の楽しみというテーマですので、登山中に見つけられるクマの痕跡についてお話していきたいと思います。

まずこの写真はクマ棚と呼ばれるものです。これはクマが木に登って、ブナとかドングリの実を食べた跡になります。クマは実が熟す頃に木に登って、木の枝についている実をこして食べています。それで食べるのですが、その枝を下に投げるわけではなくて、お尻の下に敷いていくんですね。それでどンドン木の上に枝が乗っていくという形でクマ棚が作られていきます。ちょっと見にくいのですが、左下の写真はその枝が落ちている写真です。これ私、登山中に見つけたのですが、新しかったんですね。非常に新しいということで、登山をしていくと、その先にクマがやっぱり出てきて、クマと遭遇することができました。若干距離があったので全然大丈夫でしたが、こういったこともあるということで覚えていただければいいかなと思います。

また、こちらの木の写真ですが、これは「クマの皮剥ぎ」と呼ばれる現象です。この写真は杉の木ですが、樹皮の下にある柔らかい栄養のある部分を、クマが前歯でかじった跡です。跡がたくさん付いているかと思えます。

クマの皮剥ぎということで、こうやってクマは木の皮を剥ぐのですが、不思議なのは、クマは木の幹の半分くらいしか食べないんですね。木は樹皮を一周丸ごと食べられると枯れてしまいます。ですが、クマはそれを知っているのかどうかわかりませんが、半分くらいしか食べません。ですので、このような酷い状況になっても、木は枯れることなくそのままの状態を保つということです。とても不思議です。何かクマもそれを知っているのかなというふうに思えます。そう考えてみると、クマ棚もひょっとして何か意味があるのかなというふうに考えてしまいます。

クマの話の最後に、山形の山に登っていると、関東から来た人とかに「この山、クマいますか？」とよく聞かれるんですね。そして「まさか出てこないですよ？」と言われるんです。ですが、私は「クマはいるし、出てくるかもしれませんよ」とちょっと意地悪に答えます。それはなぜかという、クマなど野生動物の生活圏に

入って活動しているということを感じてもらいたいですね。クマが息づく豊かな山の中で活動していると実感が持てれば、自分本位でただ山に登って景色を楽しむだけでなく、もっと深く山とつながれるのかなと思っています。そして「会おうと思っていてもなかなか会えない生き物なので、出会えたらラッキーですよ」と付け加えますが、「なるべく会わないように鈴鳴らしましょうね」ということで声かけをしています。

今のスライドですが、こちらのきれいなチョウはアサギマダラといいます。このアサギマダラは渡りをするチョウとして有名で、蔵王で羽にマーキングされたものがはるか南1,680キロも離れた台湾で見つかったという記録があるそうです。とても優雅に飛ぶチョウで、群れて乱舞する姿は一見の価値があります。山に登らなくても、山形市の野草園でも見ることができますので、ぜひ見ていただきたいなと思います。

また、右上の小さなセミはエゾハルゼミといいます。山の中でこのセミは6月初め頃には鳴き始めるのですが、ちょうど蔵王グリーン作戦の時期にあたります。案内をしていますが、皆さんこのセミの声に全く気付かれません。やはりこんなに早くセミが鳴いていると知らない方が多くて、皆さんにとっては雑音に聞こえているようです。そこで「ちょっと立ち止まって耳すませてみて」ということで声かけすると、「ああセミ鳴ってる」ということで、子どもとかはすごく喜んでセミの鳴き声を聞いたりします。

ほかにも写真にもあるように、子連れのカモシカやイモリなども山にはいますので、こういった動物に会えるのもいい気分になります。

続きまして、山の神様の話をしたいと思います。山形の山には神様や祠が多く祀られています。皆さんご存じのとおり古くより出羽三山をはじめとした山岳信仰が盛んで、蔵王もかつては修験の山でした。右の写真は蔵王大権現様です。蔵王の噴火を鎮めるために、奈良県吉野の金峯山寺から正式に召喚されたもので、熊野岳の山頂にある熊野神社は西暦703年に建立されていますので、約1,300年もの歴史があります。

また、左に3つ写真を並べてみたのですが、こちらはどれも同じ神様で、姥神様といいます。女性が女人禁制の掟を破り、霊山に登ろうとしたところ、神の怒りに触れて石にされたという悲しい伝説があります。かつて女性はこの姥神様より先へは登ることができませんでした。ですので、姥神様のあるところから山頂を見てお祈りを捧げていたそうです。姥神様の表情は見てのとおりいろいろな表情がありますが、姥神様は登山者や参拝者の心のけがれを引き受けて清める修行をおこなっているのだそうです。ですので、心のけがれを引き受ければ引き受けるほど怖い顔になると言われています。ですので、この中で言うと一番下の蔵王の姥神様が一番徳のある神様かなというふうに思えます。

山で活動していると人とのつながりが多く生まれます。左上の写真は蔵王インストラクター協会研修部長をやっている山口勝美さんです。テレビや新聞などでの露出も多く、今日お集りの方の中にもご存じの方もいらっしゃるのではないのでしょうか。蔵王山岳インストラクターの若いメンバー全員の頼れる師匠です。山口さんだけでなく、先輩方からはいろんなことを教えていただいています。また、山を通して知り合った友人の皆さんも登山道整備に参加してくれたり、山岳救助に関わるメンバーが自主的に集まって自主訓練をしたり

と、いろんな活動を通してどんどん人のつながりが増えていくのも本当に楽しいひとときです。ここまで山の楽しみ方についてお話ししてきました。このほかにも、山に宿泊できれば美しい山の夕景や星空、日の出など、言葉には言い表せない美しい光景を見ることができます。

ここからは、最近問題となっているアオモリトドマツの立ち枯れについて話をしていこうと思います。ご存じのとおりアオモリトドマツは樹氷となる木です。真っ青な空に枯れたアオモリトドマツの白い幹が連なっています。この光景を皆さんはどう感じるでしょうか。アオモリトドマツの立ち枯れは山形県側だけでなく宮城県側にも広がっていて、蔵王の冬を代表する樹氷が見られなくなることが心配されています。アオモリトドマツは日本固有種で、大きいものは高さ30メートル、幹回り90センチにもなります。積雪の多い所によく見られる常緑樹で、枝もよくしななって折れにくく、雪にとても強い木です。写真を見ていただくとわかりますが、葉っぱは大変細かく、樹氷となる氷が付きやすい形状となっています。福島県より南ではオオシラビソと呼ばれています。

次の写真ですが、枯れて表皮が剥がれたアオモリトドマツです。よく見ると丸い小さな穴がたくさん開いているのがわかるかと思えます。これはキクイムシが樹木の中から出る時に開けた穴です。2013年頃にガの幼虫が大量発生し、アオモリトドマツの葉を食い荒らしました。葉を食われ弱ったアオモリトドマツは樹液を出せなくなってしまったんですね。松ヤニなどに代表される樹液というのは、害虫が木の中に入り込むのを防ぐ役割があるといわれています。その弱った木にキクイムシが侵入して、樹木内部を食い荒らしたことで次々に枯れていったということといわれています。

写真は2015年に撮影した樹氷の様子です。この写真は地蔵山から少し下りてきた場所ですが、とても大きな樹氷が形成されているのがわかります。ニョキニョキ伸びた姿はまさにアイスモンスターです。樹氷の形成について少しだけ説明すると、冬、日本海側で発生した雪雲は朝日連峰や月山で大量の湿った雪を降らせます。雪を降らせた空気は乾いた冷たい寒気となり、その中に過冷却された水分を含んでいます。その冷たい空気が蔵王まで飛んできてアオモリトドマツにぶつかった瞬間に樹氷が形成され、樹氷として成長していきます。

こちらは2016年の写真です。ちょうど天気がよく、たくさん登山者の方が登っています。まだ樹氷としてはモコモコして見えますので、見ごたえのある風景を保てていました。少し遠いのでわかりづらいですが、この辺とかになります。よく見ると枯れて痩せた樹氷が出てきているのがわかるかと思えます。

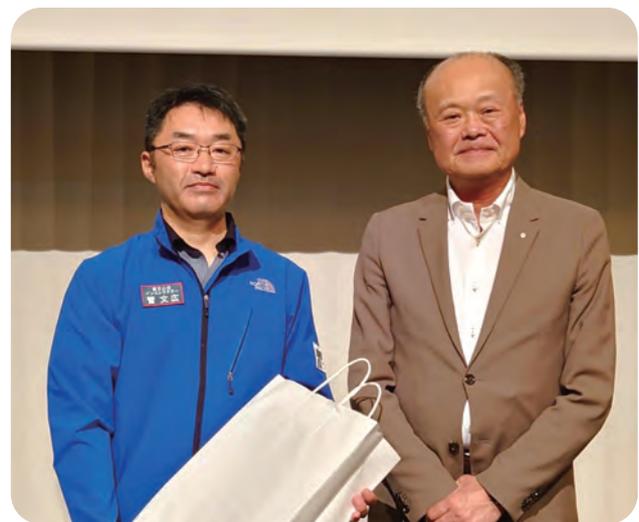
そして2019年、蔵王ロープウェイ地蔵山頂駅周辺の樹氷です。すでにアオモリトドマツは枯れまして、付いているはずの葉や樹皮が剥がれ落ちていたため氷が付きにくくなりました。魚の骨のような痩せた樹氷となってしまいました。モコモコした樹氷はなくなり、貴重な景観が失われてしまいました。

こちらが去年の紅葉の頃の写真です。美しい紅葉の中に枯れて白くなったアオモリトドマツの林が広がっていて、被害の規模の大きさがよくわかるかと思えます。

こちらの写真ですが、アオモリトドマツの若木です。これは植樹された木ではなく自然に生きづいたもので、そばにある枯れたこの木の子孫ではないのでしょうか。このように大きな被害を受けた森の中でも生き残っている若木もあるようです。蔵王のアオモリトドマツが枯れた直接の原因は虫の被害ですが、地球温暖化や人間の活動の影響もあるのではないかとされています。大きな自然の営みの中で生き物たちのバランスが一時的に崩れたのだとすれば、今回のアオモリトドマツの立ち枯れも自然の中の自然な出来事なのかもしれません。しかし人間の活動の影響が大きかったとすればとても残念な結果になりました。今、さまざまな団体の方が勉強会や苗木の植樹をおこない、樹氷復活のため活動を始めています。しかし、活動を続けても元通りのアオモリトドマツの森に戻るためには100年以上かかるかもしれませんし、もう元には戻らないかもしれません。植樹という行為自体も人間の都合で自然に手を加えているんだということを忘れてはいけないと思います。樹氷復活に当たっても、これは私の持論ですが、自然の回復力を信じて自然にあまり負荷をかけないようにしながら小さな手助けを続けていくことが必要ではないでしょうか。

最後になりますが、研修部長の山口さんが何気なく話していた言葉を思い出します。自然を守るためだけだったら、山に人を入れなければそれが一番いい。でも山に入って実際に自分の目で見てもらわないと、山と人がつながっていることや自然の大切さは理解できない。私もガイドをおこなう中で、お客様から山を楽しんでいただくことはもちろんですが、人と自然とのつながりについても丁寧に説明していきたいと思っています。

山に登るのは少しだけ大変ですが、きっとそれ以上の感動が待っています。ぜひ山においでください。また、ガイドのご要望はぜひ蔵王山岳インストラクター協会へよろしく願いいたします。本日は大変ありがとうございました。



本日出席 (9 / 2)	会員総数	出席会員数
	104名	51名